

令和3年度 病害虫防除情報

令和3年5月31日
発表：福島県病害虫防除所

- 1 対象作物：モモ
- 2 病害虫：モモせん孔細菌病
- 3 対象地域：全域

[発生状況等]

- (1) 5月下旬の調査において、新梢葉での発生ほ場割合は、伊達地域で平年よりやや高く、福島地域で平年並の状況でした（図1）。既に果実での発病が確認されています（図2）。
- (2) 天候予報（仙台管区気象台 令和3年5月27日発表）によると、向こう1か月の降水量は多い確率が40%と予想されています。まとまった降雨があった場合、感染が拡大する可能性があるため注意が必要です。

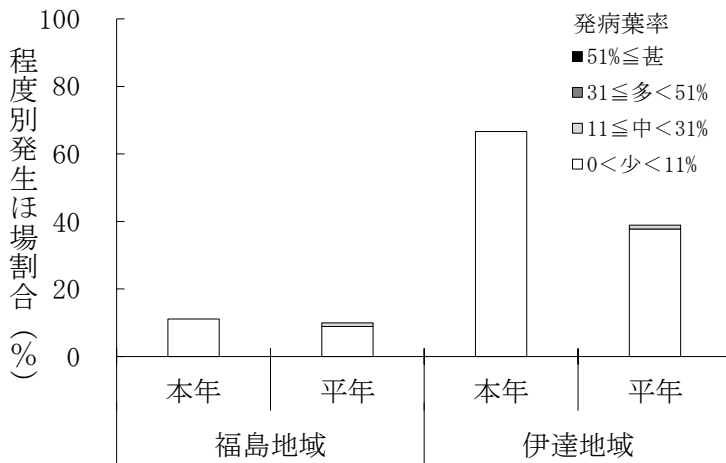


図1 新梢葉での発生状況（令和3年5月下旬）
調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地
調査品種：「あかつき」

図2 罹病葉及び罹病果実（令和3年5月24日撮影）

[防除対策]

果実での発病が確認されています！降雨が続く場合、被害の拡大が懸念されますので、罹病部（枝、葉、果実）のせん除を徹底し、菌密度の低下に努めましょう！！

(1) 耕種的防除

- ・ 現在、新梢葉が茂り、春型枝病斑を見つけにくい時期ですが、春型枝病斑の発生は続いているため、複数回園地を見回り、見落としのないよう丁寧に樹冠内部を確認してください。**発病枝の取り残しは被害拡大につながるため、発生を見逃さないようにしましょう。**
- ・ 春型枝病斑をせん除する場合は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて**可能な限り基部まで切り戻してください**（注意報第1号参照）。
- ・ 枝以外の発病部も可能な限りせん除し、園外に持ち出すなど適切に処分してください。

(2) 薬剤防除

- ・ 7月まで、10日ごとに薬剤散布を行ってください。降雨が予想される場合は、**降雨前に散布を実施しましょう。**凍霜害により、着果数が不足している園地においても散布間隔をあげずに実施しましょう。
- ・ 薬剤使用の際は、使用濃度、収穫前日数など使用方法を必ず確認してください。

(3) 物理的防除

- ・ 晩生種や黄肉種などでモモせん孔細菌病の発生が多い場合は、仕上げ摘果後、直ちに袋かけを実施してください。**袋かけは、できるだけ降雨前のタイミングで薬剤散布後に実施しましょう。**